

平成28年度 一般選抜中期日程/経済学科・公共マネジメント学科 外国語
出題の意図と解答の傾向

I (140点)

問1

【出題の意図】

全体の文章の流れに即して必要となる基本的な英単語を文法的に適切な形にして答えることができるかを問う問題。この問題には文章読解力と文法能力の両方が求められる。

【解答の傾向】

全体的な傾向としてあまりできておらず、以下のような問題点が多くみられた。

- 1) 空欄Cでは given という過去分詞の代わりに gave、giving などを使用、2) Dは過去分詞の closed となるべきところが closing となっている、3) Eの正解 contrasts は三単現のsが脱落している、4) Gの overcome という過去分詞が overcame となっている、などが頻繁に見られるエラーであった。空欄Bの when、空欄Fの introduced は比較的正答率が高かった。

問2

【出題の意図】

分詞構文 giving の用法の理解と、maintain、impression、present などの重要表現の理解を問う問題。分詞構文 giving は「～しながら」でも「～してそして～」でも可とした。

【解答の傾向】

giving の解釈として、「～のために」、「～によって」、「～すること」などとしているものが多く、分詞構文としての意味が正しく表出できている答案は少なかった。また present を「贈り物」、「プレゼント」などと訳出しているものもあり、「その場において」という形容詞の基本的意味が理解できていない答案が多くあった。また、impression を「感動」、「感銘」などとしているもの、body position を「体調」、「健康」などとするものも多かった。全体的に見て正確な理解ができているものは少なかった。

問3

【出題の意図】

It が指すもの、すなわち「いねむり」が指摘でき、文法・語法的には so that ～「～するために」、something + 形容詞、語彙的には、indication 「指し示すこと」、commitment 「献身・参加」などが理解できているかを問うた。

【解答の傾向】

It が「居眠り」であると指摘できたのは3、4割程度であり、単なる「睡眠」、「昼寝」ではないことに気づく必要がある。本文は、イギリス人の「居眠り」に対する考え方を、日本人の考え方と比較しながら論じたものであるということにさえ気づいていない者が多かったようである。また、so that ～「～するために」が理解できず、文の前半と後半がうまくつながらない例が多く見られた。さらには commitment to work を「通勤」としたのも比較的多く見られた。commute と取り違えたと思われる。また、イギリスではなく「日本の」文化的な変容があるべきだとするものも目立った。全体的に見て合格点を与えられる答案は少なかった。

問4

【出題の意図】

文法的には部分否定の not necessarily、関係副詞の where が理解でき、rational、situation、contributing といった重要単語の意味がわかるかどうかを問うた問題。

【解答の傾向】

but not necessarily contributing の句が Inemuri に接続すると解し、「いねむりは役に立たない」とする解答が目立った。また、部分否定であることを訳に反映できず、単に「貢献しない」とだけ訳す例が多かった。また you have to be there の be を「なる」、「する」とするもの、rational を「人種の」、「地域の」、「儀式的」とするものなどが多く見られた。showing を単に「見せる」と訳したことにより、日本語としてこなれた訳になっていないもの、contributing の意味が理解できていものなども多くみられた。しかしながら、全体としてはまずまずのできであったといえる。

問5

【出題の意図】

文章を読んでいく中で“we don't always have to be alert and on.”「私たち（イギリス人）は常に注意を払っていて、オンの状態になっている必要はないんですよ。」という、Stanley 氏が言っていることの実例を、本文の中から見つけられるかどうか問うた問題である。まず、‘we’が誰を指すか理解できており、また、‘not always’、‘be alert and on’の意味がわかっている必要がある。

【解答の傾向】

大多数の解答が誤りであり、とりわけ「イベントで手を上げる」、「同僚の前で居眠りする（寝る）」の2つが多く見られた。具体的な事例を指す個所がわかっているにもかかわらず conference を「講義」、tablets を「テーブル」と解釈しているものなどが見受けられた。

問6

【出題の意図】

まず文法的には仮定法過去を使った文章であることが理解できているか、第五文型の‘saw me asleep’が理解できているかを知りたかった。また語彙的に‘horrify’は幾分難しい単語ではあるが、‘horrible’、‘horror’などの単語から、感情を表す言い方の‘be horrified’として意味の類推が可能であろう。また、文章全体の内容がつかめていればそのような状況に陥った場合、イギリス人がどのように感じるかを想像することは容易であろう。そのような力があるかどうか見たかった。

【解答の傾向】

‘someone saw me asleep’は、仮定法では「だれかが私が眠っているのをみたとしたら」という形に訳出してほしかったが、「見るとき」、「見れば」、「見ていると」、「見つけたら」、「見られること」など多様な誤りが見られた。また、「誰かが寝ているのを私が見たら」、「私を見て寝たならば」というのは文型の基本が理解できていないことによる誤訳と思われる。さらに‘if’を「～かどうか」と捉えていたものもいくらかあった。‘be horrified’にはさまざまな誤訳があり、出題の意図で述べたような単語の類推、文章全体からの意味の想像ができていないようであった。このような問題点が見られるものの、全体的にはまずまずのできであった。

||

問1（各15点）

【出題の意図】

基本的な英文作成能力を問う問題である。問題は2つ。

問題1

【解答の傾向】

以下のようなエラーが多くみられた。

- ・「井戸のようだ」を likely a well、likes a well としたものの。
- ・「心」 heart のスペリングミス。 hart/hurt など。
- ・「底」のスペリングミスも目立った。
- ・Nobody knows のところを Anybody doesn't know、Everyone doesn't know とした間違い。
- ・「その底に何があるか」はほとんどできていない。

上記のような典型的エラーが散見されるものの、全体的にはまずまずであった。

問題2

【解答の傾向】

以下のようなエラーが多くみられた。

- ・ All you can do の代わりに what you can do が多く見られたが、「想像することだけだよ」に対応させるには前者の方がふさわしいと思われる。
 - ・ 「想像すること」(to) imagine となるところが、image、imagination などの名詞になっている。
 - ・ 「浮かび上がってくるもの」 what comes floating to the surface が what is floating on the surface によくなっているもの。これでは表層を浮いているものになり、与えられた日本語の文意から外れる。
- 以上のような典型的エラーが頻繁にみられるものの、まずまずのできであった。

問2 (30点)

【出題の意図】

この問題を通じて受験生は意見や理由を明確に述べられるかどうか、限られた時間内にアイデアを十分に展開させられるかどうか、段落を論理的に構成できるかどうか、また受験生の英語が十分に通じるかどうかを見たいと考えた。「内容」、「構成」、「言語力」を中心に、30点満点で解答を総合的に採点した。

「内容」については、意見や理由、詳細を十分に説明し、論理的に展開させているかを中心に評価した。「構成」については、解答は導入文・本文・結論で構成されているかどうか、“discourse markers” (first, second, one reason is, in conclusion など)や接続詞が正確に尚且つ効果的に使われているかどうかを中心に評価した。「言語力」については、解答を読んで意味が理解できるかどうか、文法・語彙・綴り・句読点が正確に適切に使われているかどうか、受験生は難しい言い回しや語彙を使おうとしているかどうか、使った場合はどのくらい正確に使えたかなどを中心に評価を行った。

【解答の傾向】

作文の構成の面はまずまずであった。いろいろな部分の初めには妥当な談話標識が使用できているし、主張したいポイントを、論理的にはっきり分けて整理できていた。I think (that) the teacher should talk to the students. And she should explain the problem.のようなエラーに見られるように that 節の中に後半部分が組み込まれる形にすることは難しかったようであるが、全体的にはわりとよくできていたと言える。イントロダクション、コンクルージョンを導く表現がより効果的に使用できれば、さらによい作文になったはずである。

以下は文法・語法に関して頻繁に見られたエラーである。

- ・ 提案をする場合は、‘you had better’では押しつけがましい、強い提案になるので注意が必要である。代わりに‘Why don’t you’, ‘You should’の方が望ましい。中学、高校で、‘you had

better'を「～した方がよい」という訳語で習う場合が多いので注意を要する。

・主語となる人物の性がわからない場合、'he'や'she'を使用せず、the teacher、the student を使用して書くべきである。

・以下のように形容詞の～ing 形と～ed 形が混同されている場合がある。通常、感情を表す表現には～ed の形となることをおぼえておく必要がある。

1) I think your students are not interesting in English.

2) From your letter, you are annoying.

・以下のようなさまざまな前置詞に関するエラーが見られた。

1) You should talk your students. (適切な前置詞がない)

2) They don't listen your explanation. (適切な前置詞がない)

3) You should scold for your students. (不要な前置詞がある)

・接続詞の that と関係詞の混同に関する以下のようなエラーもよく見られる。

1) You teach them what English is an interesting language. (what ではなく that)

2) You should give homework that they translate lyrics. (that ではなく in which)

・否定形の作り方に問題があるもの。

1) if the students study harder, all of them won't be able to pass the exam.

これはむしろ、if they don't study ～という形になるべきであるが、上のような形にすることで論理的なつながりが破たんしている英文が目についた。

・「～になる」という意味での become の用法の誤り

1) students will become like English. (むしろ students will begin to like English.)

・基本的な修飾、被修飾の形のつくり方に問題があるもの。

1) give presents to getting high score students (高得点を取った生徒にプレゼントを上げる)

2) teach your not concentrating students. (集中していない生徒を教える)

3) students have to study hard English. (hard の位置が変わることによって修飾する語が変わり、文意も変わる)